

**独自開発の「複合スパイスエキス」に、  
「冷え」「むくみ」等における自覚症状の改善作用  
—11月4日に第24回日本未病システム学会学術総会にて発表—**

ハウスウェルネスフーズは、生姜や山椒などを混合して抽出し、独自に開発した「複合スパイスエキス」に、「冷え」「むくみ」や「疲労感」等の虚証（※）の自覚症状を改善する作用があることを臨床試験で確認しました。この研究結果を、2017年11月4日から5日までワークピア横浜（横浜市中区）で開催された「第24回日本未病システム学会学術総会」で発表しました。

■虚証とは

漢方において、栄養・睡眠・休養の不足により生命力や抵抗力などの生理機能が低下している状態です。冷え、疲労、胃腸や肌などの自覚症状が現れやすいとされています。

今回の試験に使用した、生姜や山椒のスパイスには体を温める、新陳代謝機能を高める、胃腸機能を高めるなどの報告があり、自覚症状を改善することが期待できます。そこで本研究では、複合スパイスエキスの摂取が虚証の自覚症状に及ぼす影響について臨床試験を実施し、複合スパイスエキスの有効性と安全性を評価しました。

アンケートにより20歳から49歳までの女性で虚証傾向であると判断された34名に、6種類のスパイス（生姜、山椒、ナツメ、高麗人参、ウイキョウ、甘草）を使用した試験飲料（複合スパイスエキス含有粉末飲料）を通常量摂取する群（23名）と3倍量摂取する群（11名）の2群に分け、試験飲料を8週間連続摂取するオープン試験を実施しました。有効性評価を目的として自覚症状に関する6段階評価のアンケートを実施し、安全性評価を目的として有害事象の調査と生理学的検査、血液学的検査、血液生化学検査、尿検査を実施しました。

試験飲料の摂取前、摂取4週間後、摂取8週間後に実施した自覚症状に関するアンケートでは、「手の指先の冷え」、「体全体の冷え」、「疲労感」、「朝の目覚め」、「最近の胃の調子」、「肌の明るさ」、「目のくま」、「むくみ」の項目で顕著な改善が認められました。なお、8週間の試験飲料摂取期間中に副作用はなく、いずれの検査（生理学的検査、血液学的検査、血液生化学検査、尿検査）においても生理的変動を超えた大きな変化はありませんでした。

複合スパイスエキスの摂取は安全性に問題なく、冷えを始めとする虚証の自覚症状に対して有効であることがわかりました。

平均値±標準偏差 \* : p<0.05 (vs 0W) + : p<0.1 (vs 0W)

